

令和 5 年 5 月 3 1 日

市政記者クラブ 様

教育委員会子ども応援室
担当：平松 TEL 950-7162

令和 4 年度なごや子ども応援委員会の相談等対応の状況について

なごや子ども応援委員会は、常勤の専門職を学校現場に配置し、さまざまな悩みや心配を抱える子どもや親を総合的に援助し、子どもの目の進路にとどまらず将来の針路を応援するための取り組みを推進しています。

このたび、令和 4 年度の相談等対応の状況がまとまりましたので、お知らせします。

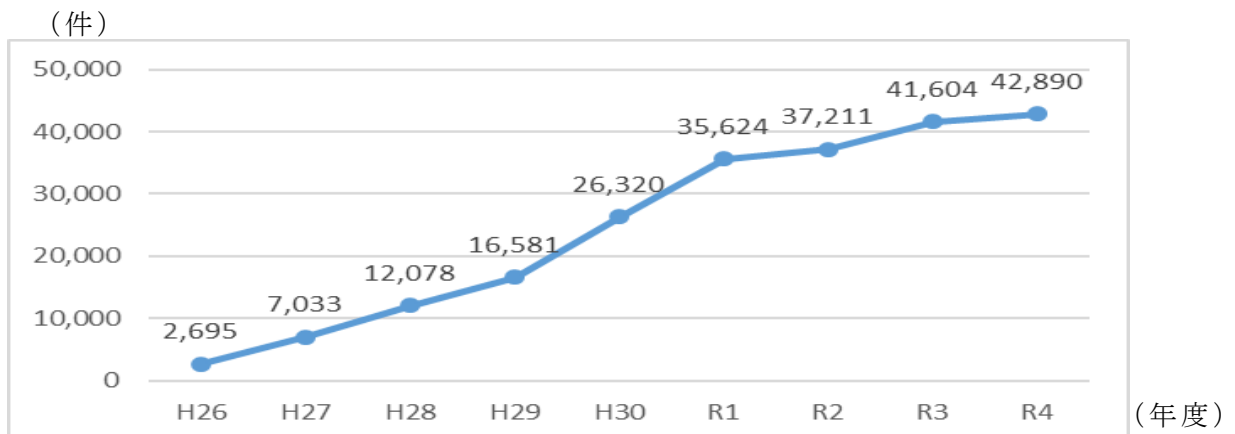
令和 4 年度 相談等対応における傾向

- 相談等対応件数は 42,890 件で、前年度 41,604 件に比べ、1,286 件増加しました。また、設置当初から 9 年間の合計は、22 万件を超えました。
- 内容別では、「不登校」が最も多く、次に「精神的不安」が続き、3 番目は「家庭の問題」となっています。

○令和 4 年度子ども応援委員会の人員体制(学校現場に配置の職員) (人)

区分	総合 援助職 (常勤・定年制)	スクール カウンセラー (常勤・任期付)	スクール ソーシャルワーカー (常勤・任期付)	スクール セクレタリー (非常勤)	スクール ホリス (非常勤)	計
人数	29	90	16	11	11	157

○相談等対応件数の推移



令和4年度 なごや子ども応援委員会の相談等対応の状況

1 相談等対応件数 (件)

区分	4年度
件数	42,890

(3年度：41,604件)

【26～4年度計：222,036件】

2 相談等対応の対象児童・生徒数 (実数) (人)

区分	小学生	中学 1年生	中学 2年生	中学 3年生	高校生	その他	計
人数	1,817	1,858	1,672	1,355	134	53	6,889

(3年度：6,480人)

【26～4年度計：36,720人】

3 相談者種別の相談等対応件数 (延べ数) (件)

区分	児童・生徒	保護者	教職員	関係機関等
件数	27,790	16,617	25,814	3,048

※「教職員」と「児童・生徒」、「児童・生徒」と「保護者」など、同時に対応する場合があります、合計数は「1 相談等対応件数」と合致しない。

4 内容別の相談等対応件数 (件)

区分	不登校	いじめ	友人 関係	教職員 の指導	家庭の 問題	発達 障害	病気 けが
件数	16,646	654	1,987	116	4,556	2,713	251

区分	虐待	非行	精神的 不安	進路 関係	学校 不適応	その他	計
件数	657	145	9,811	449	2,265	2,640	42,890

（参考）令和4年度 具体的な活動事例



【ケース1】

授業中に離席や、他の児童とトラブルになることも見られる小学生について、学校からカウンセラーが相談を受けた。カウンセラーとソーシャルワーカーが授業観察をし、本児童の特性や感情のコントロールの仕方について担任に助言をした。また、カウンセラーが学年全体に対してアンガーマネジメントの講演を行った。その後、カウンセラーと当該児童との定期面談を行ったほか、担任とカウンセラーがクラスの様子を定期的に情報共有したことにより、当該児童の離席は減り、落ち着いて授業を受けることが出来るようになった。また、クラス全体で他者に配慮したコミュニケーションを心がけるようになり、クラスが落ち着いてきた。

【ケース2】

1学期に市外から転校してきた中学生について学校から相談があった。前校在籍時より不登校で、転校当初から学習に対する不安等により登校が困難だったため、ソーシャルワーカーが、他機関の実施する家庭訪問型の相談事業を紹介し、利用することとなった。また、週1回程度当該生徒と担任が放課後に学校で会う約束をし、その際はソーシャルワーカーが登校支援を行った。登校した際はカウンセラーと当該生徒が面談を行うとともに、本人が警察の仕事に興味があったため、当該生徒とスクールポリスが話をする機会を設けた。徐々に他の生徒とも交流する時間が増え、3学期には教室へ入ることが可能になり、進級後は毎日登校できるようになった。

【ケース3】

昨年度までは欠席が多かったが、教員の声かけにより登校できるようになってきていた高校生について、学校からカウンセラーに相談があった。担任から、家庭の経済的状況により、食事を取れておらず生活環境に問題がある等の情報提供があり、カウンセラー、担任、養護教諭等と本人で面談を行った。母親が支援に対して拒否的だったが、ソーシャルワーカーが母親と面談したところ、区役所への同行を希望したため、ソーシャルワーカーが同行し、各種手当等の手続きを行った。また、保護者の支援については社会福祉協議会が関わるようになり、家庭環境が改善された。本人には校内で就職に向けた支援が開始されている。